

図26.タミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無の性別

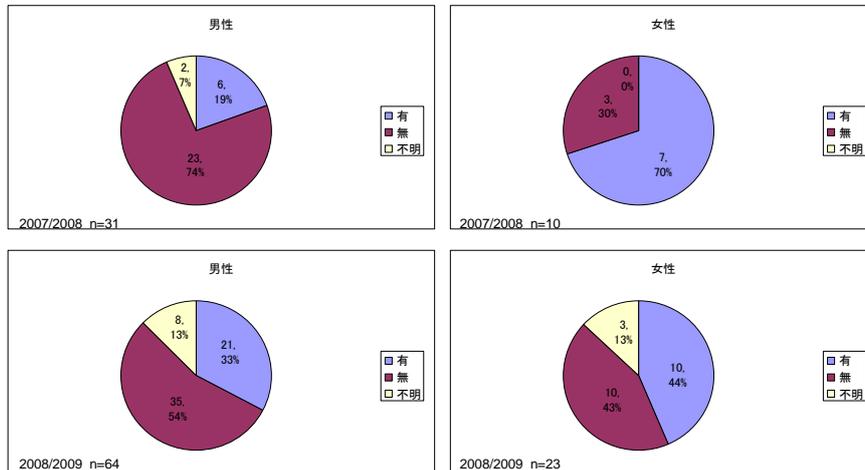


図27.タミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無の年齢別

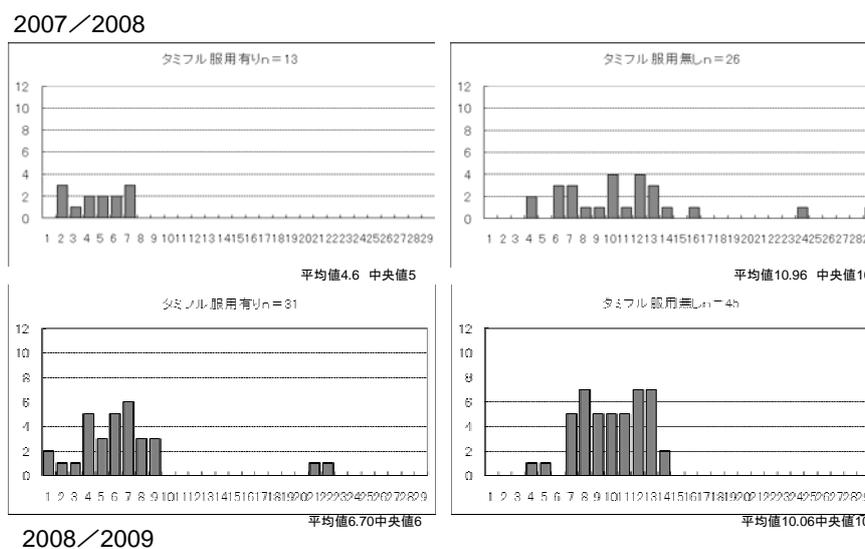


図28.シンメトレル（塩酸アマンタジン）服用の有無

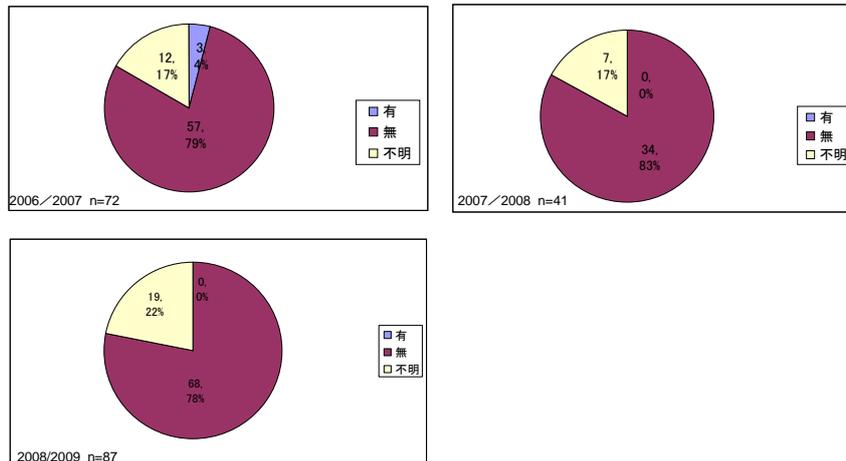


図29.リレンザ（ザナミビル）使用の有無

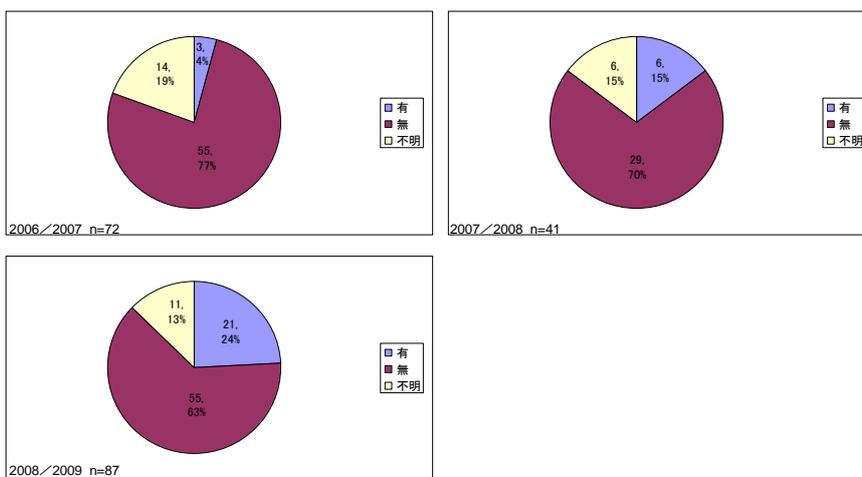


図30.アセトアミノフェン服用の有無

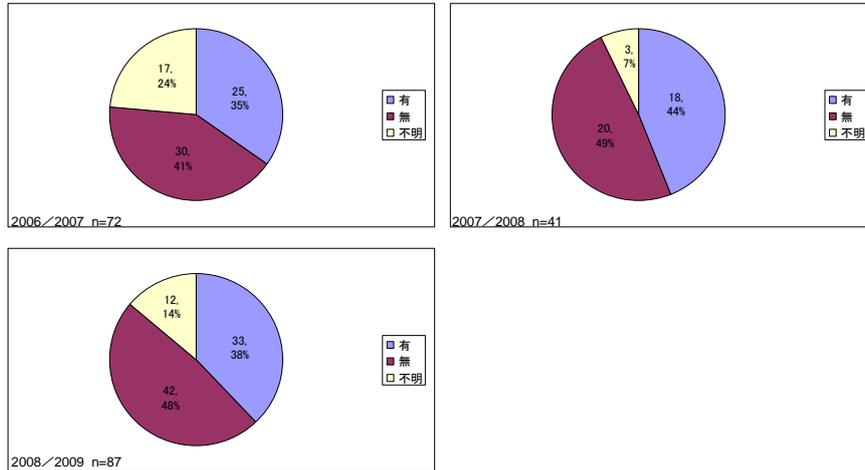


図31.異常行動と睡眠の関係

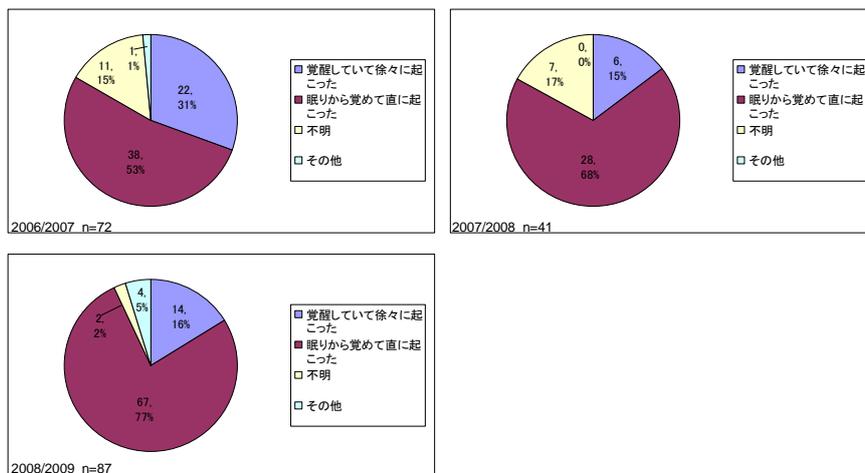
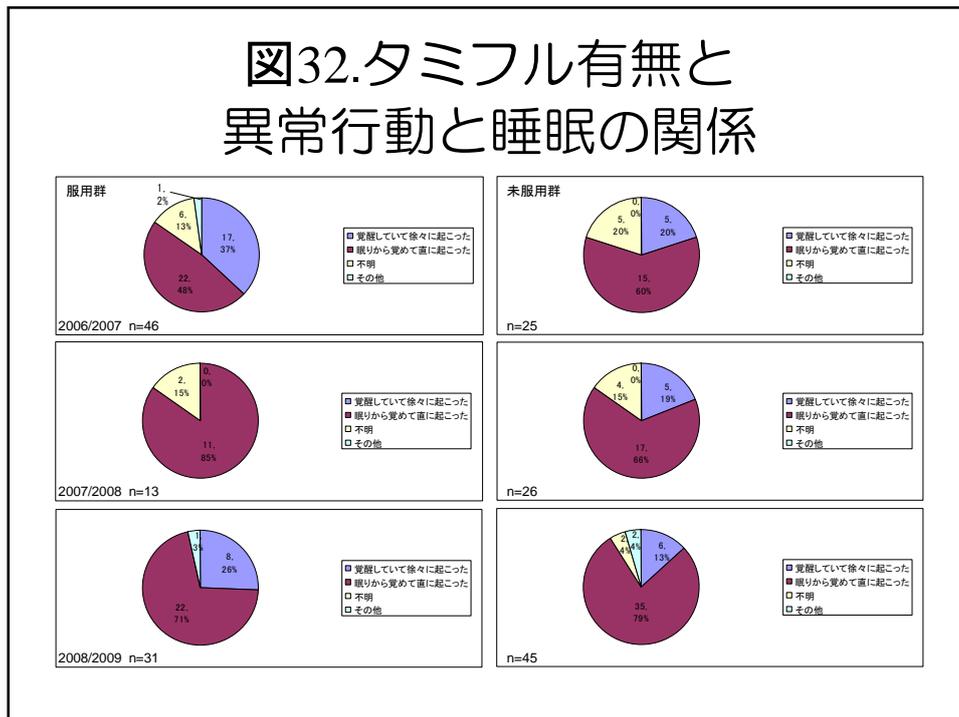


図32.タミフル有無と異常行動と睡眠の関係



まとめ

- 2008/2009シーズンは、昨シーズンに比べ発生動向調査によるインフルエンザ様疾患患者報告数は多かった。
- 重度の異常行動は、平均8.89歳(07/08同じ)、男性に多く(07/08同じ)、発熱後2日以内(07/08同じ)の発現が多かった。
- 薬剤服用の割合は、タミフルの服用は42% (07/08は31%)、リレンザは24% (07/08は14%)、アセトアミノフェンは36%(07/08は43%)だった。
- 睡眠との関係は、眠りから覚めて直ぐに起こったものが多かった(07/08同じ)。
- 昨シーズンと比べると、薬剤服用の割合に違いがみられたが、性別や異常行動の分類別の割合では殆ど違いは見られなかった。

参考資料

年齢群別異常行動発現率の経年比較

通知前との比較 (重度)

発現率(%)	2007/3/20 以前	2007/2008 2008/2009	発現率の 比	95%信頼区間	
				下限	上限
10歳未満	.0000126	.0000187	.6725543	.4738345	.9546145
10代	.000022	.0000216	1.016379	.7182737	1.438207

注: 発現率の分母は年齢区分別の発生動向調査からの推定患者数

通知後との比較 (重度)

発現率(%)	2007/3/20 以後	2007/2008 2008/2009	発現率の 比	95%信頼区間	
				下限	上限
10歳未満	.0000157	.0000187	.8414886	.5103252	1.387553
10代	.0000346	.0000216	1.600432	.9624689	2.661262

49

通知前との比較 (走り出し、飛び降りのみ)

発現率(%)	2007/3/20 以前	2007/2008 2008/2009	発現率の 比	95%信頼区間	
				下限	上限
10歳未満	.00000742	.00000847	.875897	.5477455	1.400642
10代	.0000129	.0000125	1.037121	.6584207	1.633637

50

通知後との比較 (走り出し、飛び降りのみ)

発現率(%)	2007/3/20 以後	2007/2008 2008/2009	発現率の 比	95%信頼区間	
				下限	上限
10歳未満	.00000556	.00000847	.6558661	.285184	1.508361
10代	.0000115	.0000125	.9254326	.3964459	2.160258

51

5歳刻みでの比較(重度)

		発現率の比	95%信頼区間	
			下限	上限
2007/3/20 以前と 2007/2008 2008/2009 との比較	5歳未満	.5840734	.2594405	1.314913
	5-9歳	.6980793	.4728271	1.030641
	10-14歳	1.024899	.7063877	1.487027
	15-19歳	2.184836	.6934387	6.883822
2007/3/20 以後と 2007/2008 2008/2009 との比較	5歳未満	.3697504	.0889327	1.537289
	5-9歳	1.130923	.661351	1.9339
	10-14歳	1.995648	1.163287	3.423584
	15-19歳	1.961896	.3806383	10.11205

5歳刻みでの比較 (走り出し、飛び降りのみ)

		発現率の比	95%信頼区間	
			下限	上限
2007/3/20 以前と 2007/2008 2008/2009 との比較	5歳未満	.8112103	.3011832	2.184923
	5-9歳	.9137064	.5345999	1.561653
	10-14歳	.9874282	.6104609	1.597178
	15-19歳	1.248483	.3352594	4.649267
2007/3/20 以後と 2007/2008 2008/2009 との比較	5歳未満	.7189554	.1668227	3.098481
	5-9歳	.7017565	.2538173	1.940223
	10-14歳	1.220192	.5211484	2.8569
	15-19歳	0	N.A.	N.A.

まとめ

- 2006/2007シーズンの通知前後と2007/2008, 2008/2009シーズンでの10代の重度の異常行動、あるいは走り出し・飛び降りの発現率に有意な差はない
- 10-14歳においては、2006/2007シーズン通知後よりも2007/2008, 2008/2009シーズンの方が重度の異常行動の発現率が有意に低い（走り出し・飛び降りに限定すれば有意差はない）

考察

- タミフルの使用差し控えによって大幅に異常行動が減ったわけではない
- ただし、2006/2007シーズンは振り返り調査、2007/2008, 2008/2009シーズンは前向き調査である事に留意
 - 2006/2007シーズンの調査は、後向き調査で、また、10歳代のタミフル服用患者の転落・飛び降りが社会問題化していたことが影響したため、10歳代を中心とした重度事例の報告が相対的に多くなされ、他方、10歳未満の重度事例については患者・家族からの情報が得られず報告がなされにくい環境であった可能性がある
 - 2007/2008, 2008/2009シーズンは、前向き調査であり、また、事前にタミフルの服用の有無を問わず小児・未成年者全般において重度の異常行動のおそれがあることの注意喚起が徹底されたため、昨シーズンに比べ10歳未満の重度事例の報告が多くなされる環境になった可能性がある

55